# 教育センター通信

# 火床（ほど）の火の心を紡ぐ

第８号（通算第２７号）
平成２７年１２月４日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター　発行

①

②

③

④

⑤

⑥

**【小中一貫教育全国サミット in 三条（１０月２２日、２３日）】**　①第一中区「小中合同国語授業」
②第二中区「小学校教員・理科センター職員による理科授業」　③第三中区「小学校教員乗り入れ授業：英語」
④大島中区「教職員によるパネルディスカッション」　⑤開会行事　⑥シンポジウム

## 境　界

教育センター指導主事　丸山　巧

児童玄関から２階へ向かう階段付近ですれ違った男性は、ツイードの上着に身を包んでいました。グレー系の色でまとめた装いに初冬を感じつつ、すれ違う参加者の方々に挨拶をしながら体育館に急ぐと、数メートル先に半袖シャツの男性。やわらかな素材のシャツが、歩みと一緒に左右に揺れていました。季節感を失う不思議な感覚、空港の国際線ロビーに似ています。

季節が変わる 10 月 22 日、23 日、北海道から沖縄まで日本各地から大勢の参加者をお迎えし、「第 10 回小中一貫教育全国サミット in 三条」を開催することができました。参加していただいた方々と、サミットの開催にお力を貸していただいた方々に、衷心から感謝申し上げます。

サミットの興奮も冷めやらぬ 11 月 10 日、11 日、つくば市で行われた「21 世紀の学びを変える ICT を活用した小中一貫教育研究大会」に参加してきました。竹園東中学校で社会と英語の授業を参観し、第１分科会で「これからの小中一貫教育における ICT の活用」をテーマに、つくば市の「施設隣接型小中一貫教育校」における児童生徒の交流、教職員の情報共有・交換、職員研修などで ICT 機器を効果的に活用している実践を興味深く聞きました。

つくば市の大会で、ICT と英語の深いつながりを再認識しました。「ICT を使えば、時間と空間を越える」ことができ、テレビ会議やインターネット電話で、簡単に国境を越え、意思の疎通ができるのです。全体会では、市内の小中学生が電子黒板やタブレットを使い、英語でプレゼンテーションを行っていました。隣に英語を母語とする友がいる彼らにとって、英語は生活に密着しているのでしょう。豊かな表情もジェスチャーもネイティブのようでした。

駅への道すがら、ダウンジャケットを着た人に会いました。電車内には中国語が飛び交っていました。あらためて「作られた境界」の漸減を感じた二つの研究大会でした。

# 通常学級における学びのユニバーサルデザイン研修会（9月25日）

講義に耳を傾ける参加者

解決方法を考える（個人）

解決方法を紹介し合う（グループ）

付箋（アイデア）を黒板に貼る

◆参加者：３７名（市内教職員、子育て支援課職員、加茂市教職員）
◆講師：アンダンテ西荻教育研究所代表　金子晴恵様
◆演題：学びのユニバーサルデザイン（ＵＤＬ）の理念とＵＤＬに基づく授業づくりのポイント（講義とワークショップ）
◆講義の概要

**１．先生の意識にＵＤＬの視点を**

①ＵＤＬは全ての人に等しく学習の機会を提供するカリキュラムの開発のための一種の原則です。誰もが分かる魔法の授業の仕方を伝授するものではありません。残念ながらそのようなものは存在しません。

②“障害”は学習者ではなく、カリキュラムの方にある。

**２．ＵＤＬの視点でカリキュラムを見直しましょう**

①当たり前だと思ってきた学習の形式や方法に多様な学習者に対処できず一部の学習者にとって学びにくくしている。②はその一例。

②Ａさんは長さが理解できていないし、測定もできない。けれど自分の持っているプラスチック製のものさしを使うと大丈夫。Ａさんは竹のものさしが読めなかった。⇒数字が表記されたものさしを使用する。

③教室にこんなお子さんがいるかも知れません。◆認知 ◇方略 □感情

◆言葉（口頭）の聞き取りが苦手　◆音読はできるけれど内容理解は苦手
◆文字を読むことに困難がある　◆映像・図など視覚的な情報の理解が苦手
◆語彙のすくなさや言語理解に弱さがある
◇文字を書くことが困難　◇話すことが苦手　◇手先が不器用
◇対人関係やコミュニケーションが不得意　◇文章を書くことが苦手
◇何か作業や課題をこなす時に、段取りよく行動を組み立てることが苦手
□気が散りやすい　□不安や緊張が高い　□学習へのモチベーションが低い
□適度の目標設定や自己評価がうまくできない　□達成経験が少なく、自信がない

**３．解決策を考えてみましょう**（グループワーク）

①学習方法や教材を想定し、上記２の③の子どもにどんな負担がかかるか書き出し、それに対応する解決方法（アイデア）を考えました。

②アイデアを付箋１枚に１つずつ書いて、黒板に張り出しました。

**４．まとめ**　ＵＤＬは「こうすればよい」という完成形のマニュアルでなく、全ての学習者に「学び」が発生することを目指して、常に改善を重ねていくプロセスです。

①ＵＤＬという名の“ちょっとした手法”を“取り入れる”のではなく、学習というプロセスを“デザイン（計画・構成）”するための“フレームワーク（枠組み）”がＵＤＬです。

②主語は、子どもではなく、カリキュラム（指導案）です。

・〇〇さんは、漢字が読めない　⇒　この教材は、漢字が読めない子どもには読めない
・〇〇さんは、割り算ができない　⇒　この問題は、割り算に躓いている子どもが取り組めない

③学習のねらいが重要です。⇒ＵＤＬではすべての学習者が学習できることを目的にしています。

例えば「割り算ができない子は電卓を使う」という手だては、学習のねらいを達成する上で支障がなければＯＫ、その子の「学習」になっていなければＮＧ！学習のねらいが同様に達せられるなら、様々な方法を認めるべきです。

【受講者の声】

・できない生徒にもできるような授業の工夫、オプションを考えてこれから授業をしていきたいと思います。
・自分の授業改善の視点としてＵＤＬが大切であると感じた。多様な困り感にどう対応するか、また、できる準備をしておくか、授業をデザインしていく上で今日の研修はためになりました。
・カリキュラムに問題があるという発想に驚きました。できないことを子どものせいにしてしまうことが多いことを反省しました。保育の中でも役立つ考え方でした。

# 生徒指導・学校運営訪問について

小中一貫教育推進課指導主事　小田　貴樹

今年度市内９校の訪問をさせていただきました。訪問して一番うれしく感じることは、子どもたちが元気な挨拶で迎えてくれることです。訪問したどの小中学校でも廊下ですれ違う際に大きな声で元気良く迎えてくれました。子どもたちの挨拶は爽やかな気持ちにしてくれるとともに、学校の明るさを感じる事ができました。そして参観授業では、子どもと先生の関係、子ども同士の関係がよく、そのことが、のびのびと学ぶ姿に表れていました。先生と子どものやりとりから「関わり合い」を大切にした授業を展開していました。学習のめあてや見通しが示されており、子どもたちが安心して学習に取り組んでいることを実感できた訪問でした。

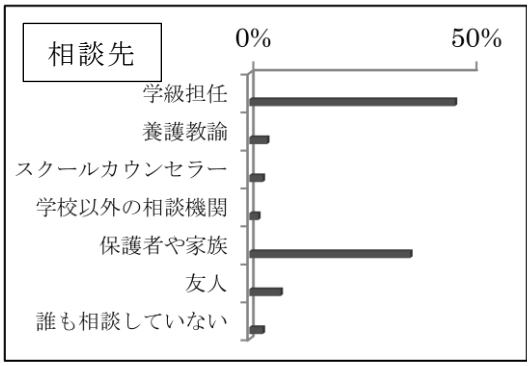
生徒指導訪問ということで、支援を要する子どもの現在の状況、別室登校している状況など具体的に説明いただきました。市の「適応指導教室」「子ども・若者総合サポートシステム」等、関係機関と連携できるケースもありますのでご相談いただきたいと思います。

【Ｈ２６児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査】から

（１）いじめについて

市内の認知件数は31件（再調査で増加）であり「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、全認知件数の５割となっています。学年は小５～中２の間に多く発生しています。

いじめを受けた児童生徒の相談先で最も多かったのは学級担任であり、次に多かったのが家族や保護者でした。本人や保護者からの訴えをきっかけにいじめが認知されているということは、日頃の教育相談が機能しているということです。始まりは軽微ないじめです。それが深刻化しないように初期対応をお願いします。




（２）不登校について

市内不登校の現状として平成２６年度は９６名と２５年度と比較すると増加しました。（発生率も増加。県・全国の数値も増加）

右表が不登校になった主なきっかけです。

市内の結果から、学校に係る状況は「友人関係をめぐる問題」「学業の不振」になりますが、家庭や本人に係る状況のきっかけが高くなっています。支援を必要とする子どもと保護者が多くいるという実態が見られます。また、前年度年間 10 日以上の欠席がある児童生徒が翌年 30 日以上の不登校に該当するケースも多く見られます。定期的な欠席が見られたり、保護者からの連絡なしに欠席する等、様子がおかしいと思った時は速やかに対応ください。

| 主なきっかけ | 割合 |
|---|---|
| 友人関係をめぐる問題 | 18% |
| 不安などの情緒的混乱 | 18% |
| 学業の不振 | 11% |
| 親子関係をめぐる問題 | 9% |
| 心身の病気による欠席 | 8% |
| 無気力 | 7% |
| 家庭内の不和 | 6% |
| その他 | 23% |

（３）問題行動について

触法行為を含む問題行動は大幅な減少傾向にあり、学校運営が滞るような問題行動は見られません。

個々の単発するトラブルや問題行動の背景には複雑な要因が重なり合い、関係機関と連携が必要な事案が目立っています。特にネット上（ＳＮＳ）のトラブルが起因する問題が課題です。

今後も児童生徒の「安全」「安心」な生活のために、自ら危険を回避する能力を育成するとともに、交通安全指導等についても常日頃の指導にお取組いただくことをお願いいたします。

# 第12回　小中一貫教育推進委員会

今年度２回目となる標記の会が１１月２６日に栄庁舎で開催されました。その概略をお知らせします。

**協議事項１　第１０回小中一貫教育全国サミット in 三条」の総括**

・これまでの三条市の小中一貫教育の歩みを高く評価した記載が多く見られた。
・児童生徒の学習に対する姿勢だけでなく、挨拶や合唱などの活動も評価され、学習指導に加えて道徳や総合的な学習の時間といった全教育活動に対して高い評価を受けた。
・三条市内の各中学校区の取組を要項とポスターによって紹介と提案を行った。各中学校区の創意工夫にあふれる取組と活動は参加者の共感と感銘を得るものであった。
・小中一貫教育の推進にむけて、いくつかの課題の指摘を受けた。今後も課題の早期解決と、さらなる発展を目指し、力を合わせて継続した取組を推進していく。
※「参加者のアンケート結果」等から、考察したものです。
なお、アンケート結果の詳細は第９号でお知らせします。

**協議事項２　三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価アンケートの実施計画**

１　調査対象者
①市内全小学校第５・６学年の全児童及び市内全中学校第１～３学年の全生徒
②　①の保護者全員　※保護者対象アンケートは１世帯１枚。
③市内全小・中学校教職員　※市教職員名簿に記載されている教職員（スクールアシスタントは除く）

２　実施方法

| 対象者 | 記入の仕方 | 記名等 | 回収方法 | 回答期間 |
|---|---|---|---|---|
| ２の① | マークシート方式 | 無記名 | 学級ごとに袋に入れて回収 | １２月９日～１５日 |
| ２の② | マークシート方式 | 無記名 | 袋に入れ子どもを通して学級担任へ | １２月９日～１８日 |
| ２の③ | マークシート方式 | 無記名 | 小中一貫教育コーディネーターへ | １２月９日～１５日 |

☆　小中一貫教育コーディネーターは、すべてのアンケーが集まったら配付用封筒に入れて教育センターまで送付する。　**【締め切り　１２月２１日（月）】**

３　調査結果処理及び結果の提供
〇調査集計期間　平成２８年１月～２月上旬
〇結果の提供の　数値データ　　平成２８年１月下旬
　予定時期　　分析、考察結果　平成２８年２月中旬

４　今後の方向性
調査結果のデータを蓄積し、児童生徒、保護者、教職員の意識の経年比較を行うことにより、継続して本市学校教育の推進及び教育施策の参考にする。（２６年度と２７年度を比較する。）

**その他**

１　小中一貫教育新潟県連絡協議会設立構想（案）※来年度前半には発足できるよう準備を進める予定。
★設立の趣旨：この度の義務教育学校の法制度化を機会に県内の市町村教育委員会が相互に連携を深め、各自治体の小中一貫教育の更なる充実・発展または導入を目指す。
★事業内容　①小中一貫教育の研究・研修　②教育委員会相互の研修及び実践の交流、情報交換
★参加対象　①既に、小中一貫教育を実施している教育委員会
②今後、小中一貫教育を実施する構想を持っている教育委員会
③将来、小中一貫教育の導入について検討する予定がある教育委員会

２　小中一貫教育制度移行について
小中一貫教育制度移行に係わる文部科学省令の公布後に「第２回制度移行検討委員会」を開催し、制度移行、三条版コミュニティ・スクール設置の基本計画（案）等について協議する予定。

３　小中一貫教育についての各中学校区の取組状況について